

○30番（谷口攝久君）〔登壇〕

新政和クラブの谷口でございます。既に私たちの会派からは、それぞれの意見を集約していただいて黒岩議員から第1番目に発言をさせていただいております。私もその部分を一部引用しながら質問させていただこうと思っています。

まず私は、ことし元日、とにかく1日から3日まで、戊辰戦争の葉隠墓苑のテレビが放映になりました。私たちの会派の皆さん方は、本当に武雄と秋田を真心で結ぶということから一昨年は全員で調査もしていただきましたし、去年が140周年という記念の年でありますので、そのことでいろいろと検討する機会があろうかというふうにしておりましたけれども、いろいろ年末にかけてにぎやかなことがございまして、きょうはあえてその問題については後ほどですね。実は、市政の円滑な運営について、市民病院の問題を取り上げさせていただきましても、まず冒頭、教育行政、文化行政を先に取り上げさせていただこうと思います。

実は、「葉隠墓苑」というテーマのいわゆるケーブルワンが独自に取材して、そして番組を構成していただきました。その冒頭に、秋田の竿燈の場面が出てまいるわけですが、本当に武雄市を埋めつくして温泉通りで秋田の竿燈がありました。そのとき3万人といえますから、相当の人数が集中したわけですよ——笑っているのはだれですか。だれが笑っているんですか。話をしているときはまじめに聞いてくださいよ。それは、その当時公表されていることですから、生まれてない人は言わないことですよ。議長、注意してくださいよ。失礼な。

○議長（杉原豊喜君）

私語は慎んでください。

○30番（谷口攝久君）（続）

要するに私たちの思いは、実は何を言いたいかというと、本当に心のこもった交流というものがあつたときに、門外不出と言われた秋田の竿燈を秋田の方々を持ってきて、そして武雄の馬渡さんのお墓参りをして遺骨を持ってきてあげて、その後いろいろなそういう披露までしていただいたという、本当に武雄の歴史に残るような、これは昔、武雄市史にも載っているぐらいですから、そういうことを実は思い出しました。それが去年の140年という大きな節目です。

戊辰戦争で武雄で亡くなった方は、一番最初に亡くなられた、約1,000名の方が佐賀藩は行っているわけですから、その中で実は馬渡栄助さんという方が雪の中で、寒い北国の中で本当に若い年で二十何歳かです。亡くなられて、その戦争の犠牲者として、実は日本の国をつくる最初の大きいわば国内の戦争でありますけれども、大きな節目になる戊辰戦争です。ですから馬渡栄助さん、要するに戊辰戦争でいわゆる戦って亡くなった方々は靖国神社にちゃんと祭ってあるわけですよ。それくらい歴史的に大きな意味合いを持つ戦いの中で、どう

して武雄市がそういうふうな形にかかわり持ったということが非常に大きな問題になります。

私はあえて竿燈の話をしましたけれども、これは巻頭言のつもりじゃございませんからね、巻頭にまず竿燈の話をしたということでございますので、その点についてはおわかりをいただきたいと思います。

実は、その中で出てまいりましたのが、秋田の方々の、これはビデオを持ってまいりましたけれども、このケーブルワンのDVDをいただきまして御披露したいと思いますが、議場では御披露できませんので、一応その中の2点についてお話しします。1点は、実はいわゆる去年も140年ということで慰霊祭をして、新屋というところの地域の方々が本当に一生懸命、私たちが、いわゆる秋田が廃墟にならなくて済んだのは、佐賀から、武雄から来ていただいて自分たちの命をかけて守っていただいたおかげだということで非常に感謝をして、実は葉隠墓苑というお墓までつくってもらって、年に3回いろんなお祭りをし、同時に毎週、毎週交代でその地域の団地の方々が集まって草むしりからお掃除からお線香上げまでやっていただきます。そういう場面がずっと出てくるわけですよ。

そういう歴史的な流れの中で、その地域の子どもたちが言った言葉は、私たちの御先祖が本当に私たちのまちを守ってくれた佐賀藩の人、武雄の人に感謝する。私たちはありがとうとお参りをしましたという言葉がその中に出てくるわけですよ。そして、お線香を上げることに喜びがあるんだという地域のおばあちゃんたちもいらっしゃるわけですよ。そういうふうないわゆる秋田の方の真心というものを本当に感じてそういう展示会が去年おとし開かれようとなりましたし、それが一ノ瀬泰造写真展の関係があっというゆる中断をし、できなくなり、そして去年やっと140周年という、今度は篤姫が入ってきたために、その記念展も実はある程度規模が縮小されたと。

私はここで取り上げたいのは、そういう問題のいろんな形の中で武雄の歴史、あるいは先人たちの努力、そういうものを取り上げていくことは実は教育に大きな関係があるんじゃないかという気がしたもんですから、あえて教育問題の中で取り上げているわけですよ。

実は、文部科学省がやりました全国の小・中学生の全国一斉模擬テストの発表が先般あっておりましたけれども、その中で、私の記憶違いでなければそうですけれども、実は秋田の子どもというのは本当に先人たちのことを大事にし、御先祖様、あるいはまた郷土の先輩たちのそういうものをきちっと大事にしてそして感謝をしながら過ごしているところの子どもが成績がいいんですね。全国トップ、秋田ですよ。武雄に感謝しているという秋田の子どもたちが全国で成績が一番いいと、これはどういうことだろうかと。これは教育との関係の中で、行政と教育の仕組みの中で私はあえて今から場所を変えて質問をいたします。

そういったような問題と、実は本当に雪の中で馬渡栄助さんの亡きがらを埋めてあった、いわば土まんじゅうと言えおかしいですが、そういう戦争の後に秋田の人たちは雪の中で真っ白になりながら亡きがらを発掘して、そして、わき差しからいろんなものを取り

出してもらったんですよ。そのとき馬渡さんは南を向いて座ってあったと。なぜかという、南というのは、いわゆるふるさと佐賀であり武雄なんですね。武雄のほうに向かって手を合わせてそこに葬られておったということがそういうテレビの中でも紹介をされました。ごらんになった方もたくさんいらっしゃると思いますけれども、私はあえてこういう問題を取り上げておりますのは、市民病院の問題にいたしましても本当に相手を思いやる気持ち、いたわる気持ち、そういうものがやっぱり病院経営にしても政治の中でも絶対必要だということが頭の中にあるものですから、あえてこういう話から始めていったわけでございます。

あといろんな資料がありますので、1時間半でございます。健康上の理由もございませぬけれども、十分に頑張らせていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

どちらから答えようかと迷っていらっしゃるようでございますが、教育長からお願いしたいと思っております。というのは、何の問題かという、要するに戊辰戦争の関係の資料、その他についての取り組みの仕方等についてまずお尋ねをしたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

非常に大きな問題でありまして、簡単には言えないところもございませぬけれども、全国に先駆けてつくられた大砲等も、本来であれば日本人に向かってでなく、維新の前の前夜の外敵に向かってという本来のねらいがあったらうかというふうに思います。戊辰戦争に限りますと、1,000人もこの武雄市から行かれたというこの事実は非常に大きいものがありますし、今お話にありましたような心の交流につながっているということも非常に大事なところでありますし、また教育に生かせる面もある大きなことだというふうにとらえております。

○議長（杉原豊喜君）

30番谷口議員

○30番（谷口攝久君）〔登壇〕

慰霊祭のときに実は本当にうれしかったことが1つありました。ここ2年ほど途絶えておりましたいわゆる武雄からの参加、それが行った方は昨年はいらっしゃいませんでしたけれども、実際に亡くなった佐賀藩士の方々、武雄の方々をせめてふるさとのお酒でも飲ませてあげたいということで実は毎年お供えしてあったものが中断しておりましたもんね。それがやっとことしは実はテレビの中で見ますと、「武雄市長」と「市議会議長」という名前でお供えがしてあった。私は、ただお酒だけじゃなくて、そういう心が随分と秋田の方々が喜んで、こんなにしてやっぱり武雄の方々を私たちが守っているのを喜んでもらっているんだなということをしみじみおっしゃったということもお聞きいたしておりますが、その点について、今の戊辰戦争に対する市長の考え方をお聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

戊辰戦争に対する私の考え方でしょうか。

〔30番「はい」〕

私は、歴史は重層的だというふうに思っております。とりわけ戊辰戦争についてこうだとか、ああだではなくて、やはり私たちがこの世にあるのも歴史の太古からの積み重ねがあって、先人たちの御努力、御苦労があってここにあるものだというふうに思っておりますので、だからどうだとかこうだとかというのは私は基本的に、私の態度ですけれども、歴史に対しての評価ということについては、もともとからそういうふうに思っておりますので、戊辰戦争についてどうだということについては特にありません。しかしながら、馬渡栄助さんについて私も調べました。本当に故郷を思い、故郷を憂い、そして秋田のために戦っていただいた、これは歴史の戊辰戦争という大枠の話じゃなくて個人のことでありますので、非常に私はありがたく、また深く武雄の名、佐賀藩の名を高らしめたという意味では、後輩の者として感謝をしている次第であります。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

30番谷口議員

○30番（谷口攝久君）〔登壇〕

市長の考え方そのものは、私は別にあなたの考えを否定するわけじゃございませんけれども、特にないと。しかし、これは歴史にどうこうじゃなくて個人のことでおっしゃるけれども、馬渡さん個人で自分が好き勝手に秋田まで行ったわけじゃないんですね。実際に歴史の中で武雄がいわゆるそういうふうな隊を組んで行くと。いわゆるあの時期に京都まで行って、しかも伊万里から出港したということをお聞きしていますが、行ってからいわゆる大阪から京都に行くまで本当にあそこでにしきの御旗をいただいて、その旗が今、武雄の歴史資料館にあるわけですが、にしきの御旗を奉戴して、そして瀬戸内海を回って秋田に行ったという、本当に長い道のりの中で武雄が持っていった、いわゆる武雄が開発したあの大砲とか、そういう武雄が要するに日本じゅうのあらゆるところに先立ってやったそういうふうな近代科学の粋を集めたいわゆる大砲とか、あるいは銃とか、それと同時にほかのいろんな薬剤とか、そういうものをみんな持って秋田に行ったということが記録にあるわけですから、単に個人のこととして馬渡さんの死を悼むという考えはやっぱり私はいかがという表現はおかしいですけれども、考え方が違うんじゃないかと、私とあなたの考え方が違うんじゃないかという気がいたします。もうそのことはいいです。

ですけれども、大事なことは、私が言いたいのは、きょうまず言いたかったのは、ちゃん

とそういうお供えをしていただいたということに対して私はお礼を言いたいということが最初はそうだったんですよ。けども、何か笑い声から始まったもんですから、ちょっと調子が狂ってきましたけれども、実際問題として大事なそこらじゃないかという気がいたします。

続けて申し上げますけれども、実は馬渡栄助さんだけじゃなくて、一番最初に武雄で亡くなったのは樋口泉兵衛さんです。樋口泉兵衛さんとはにかく八並の方でございますから、いわゆる今の状況の中で伍長ですね。そのとき年齢は25歳ぐらいですかね。ちょっと私メモございませんけれども、いわゆる官軍ですけども、戊辰戦争に参加した佐賀藩武雄の隊、武雄、山内含めましてそういう方々の中の一番最初の戦死者が樋口泉兵衛さんだということが記録にあります。そういうふうなことを含めて非常にいろんな方々がいわゆる大戦というですかね、戊辰戦争の中で命を落として日本のため、ふるさとのために頑張ったということを実は検証する機会が武雄でも何回かあったわけですけども、まだあれからいわゆる130周年の後そういうのがございません。140周年がやっとそういう形を検証するためのいわゆる展示会だろうというふうに思ったわけです。

ただ、戊辰戦争があったから、篤姫の話がまた後出てきたわけですから、篤姫に話を移しましょうか、そしたらですね。そしたら、篤姫のことについては、この間、篤姫の展覧会がありましたけれども、あの中でじゃ何を、もっとも市長がしたわけじゃないわけですから、あの篤姫展にしても教育委員会が頑張ってもらった、図書館が頑張ってもらったと思っておりますけれども、篤姫の中で出てくる歴史的なものは何かというと、少なくとも山口尚芳とか、それから何ですか、篤姫の恋人とは言えませんが、いわゆるドラマ上出てくる小松帯刀と一緒に、江戸城の無血開城のときに先頭になって入城したという記録が実は石井亮一さんの武雄市史の中にあるんですよ。それをやはり今度の篤姫展の一つの切り口としてされたんだろうと理解をしています。戊辰戦争の前後からそういうものにかけての非常に歴史的な流れの中でああいうドラマだって生まれているわけですよ。そういうことを考えたとき、先般の篤姫展についての市長の考え方、感じをお聞かせいただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、この答弁に先立つ前に、私が申し上げてないことを引用されるのは、ちょっとそれはいかがなものかと思うんです。私は、個人が好き勝手に行ったということは一言も申し上げておりません。やはり個人の営みの上に歴史があるものだというふうに思っておりますので、それを悼むことについて私がどうかと、それは個々人の考え方の相違だと思うんです。ですので、それをいかがなものかであったりとか、あるいは、もし引用される場合は私の答弁を正確に、やはりここは谷口前議長さんとも、私は崇拝しております、そういう意味でき

ちんとやっぱり引用をされることがこういう特に公の場での質問、答弁というのは、私はそれは求められていることだというふうに思っております。

篤姫展につきましては、私は、今回もともとNHKのプロデューサーと知り合う機会があって、私は篤姫というのを知りませんでした。そのときにだんだんドラマを見るうち、勉強するうちに佐賀藩、とりわけ武雄領とのつながりがあるということ、それとテロップの中に佐賀県武雄市から資料提供があると、これは教育委員会から教えてもらいましたけれども、そういうつながりがあるといったときに、ここで思ったのは、やはり知っている人たちに我々が持っていることをやっぱりするというよりは、余り歴史に関心がない方々、とりわけ子どもたちに、あるいは篤姫をごらんになっている歴史に余り興味がないかもしれないけれども、そういうもっと広い層にアピールをすべきだと。したがって、篤姫は我々からすると入り口なんですね。入り口で篤姫があつて、武雄領と薩摩藩がこういうつながりがあつて、そこに戊辰戦争とのつながりがあつて、山口尚芳先輩とのつながりがあつてということが今我々が求められている展覧会の一つのあり方だというふうに私自身は思っております。したがって、5,000人を超す内外からの皆様方にお越しいただきましたし、そういった意味での私は評価はいただいているというふうに思っております。

これは他自治体の例になるかもしれませんが、私もいろんな展覧会を今まで見てきました。そしたら、やっぱり入ってない、人が入らないような展覧会というのは、公費を使う以上は、それはやっぱりいかなものかというふうに私自身は思っております。1人でも多くの歴史に余り興味がなかった、故郷にこれから関心を持とうという特に若い人たちに幅広く入ってきていただくために、今回、教育委員会と協議をしながら篤姫展を開催した次第であります。

いずれにいたしましても、私も故郷のことを深く知ってほしい、あるいは故郷の先人たちの活躍を知ってほしい、これは議員と考え方は一緒だというふうに思っておりますので、ただ、今思うと議員の考え方と私の方法論ですよ、そこは乖離があったかなというふうに思っておりますけれども、私はこの篤姫展を戊辰戦争を加えることによって1人でもより多くの皆さんたちに見ていただいた、そして評価をしていただいたというふうに今回の展覧会の件についてはそのように評価をしております。

○議長（杉原豊喜君）

30番谷口議員

○30番（谷口攝久君）〔登壇〕

おっしゃること、内容については私いろいろ反論をする気持ちは毛頭ございません。ただ、さっきおっしゃったように、個人のこととしてとらえるという表現は、別にほかの場所でおっしゃったわけじゃなくて、今この場でおっしゃったから、それを引用して聞いたわけですよ。じゃ、それはいけないとおっしゃるなら、停止して議事録で起こしてくださいよ。議長

どうですか。（発言する者あり）

別にお互いが言葉じりをとって言うわけじゃないですから、大事な時間ですから、これについては後で議事録で見てください。私は、今聞いたことで、それに対してはいかがですかという表現をしているわけですから、市長がいろんなことについて何も取り組んでないとか、前向きじゃないとか、そういうことを言っていることは毛頭ないわけですから、そこはおわかりいただきたいと思います。個人のこと云々というのは、そういう個人のこととしてとらえる評価した何々というふうな表現があったから、そのことであればという言い方をしたわけですから、決して、よく発言した内容を見て言ってくれと言われてたって、これ以上言いようがないわけですよ。ですから、それは後で調べてください。

次に行きます。

そういったような問題の中で、実は山口尚芳の問題と資料の問題が出てまいりました。というのはどういうことかということ、実はいわゆる秋田の子どもたちが今度のテープの中で出てきて一生懸命、中学生も小学生も一緒に手を合わせてお参りをし、近所のおじさん、おばさんたちも一緒にお参りをしている姿を見て非常に深い感動をしました。

そして、子どもたちも本当にあれだけやっぱりきちんとした発言をするんだなと思いましたのは、後でまたビデオを置いておきますので、ごらんいただくといいと思いますけれども、子どもたちが、要するにおじいちゃん、いわゆる先輩、地域の方々から聞いたんでしょう。そういうお話を聞いて喜んでお参りをしていますということをきちっと話をするわけですよ。

私、これくらいやっぱり先祖とあえて言いませんけれども、先人たちのこと、それからお世話になった人のことを記憶にとどめ、あるいはみんな地域で守ろうとしているその地域の方々、そういう方々はトータルとしては秋田の真心という形になっております。そういうことで、私も馬渡栄助さんのお墓を武雄までわざわざ秋田から持ってきてもらったときにお世話をさせてもらった者の一人でございますし、同時に正法寺での慰霊祭、あるいはお墓に納骨されることとかいろんなことを思い起こしたとき、本当に先人たちのすばらしさを感じました。

ところが、どうしても先輩、先人たちのいわゆる頑張られたことがだんだんだんだん時代が変わってくると埋没してしまうんじゃないかという気がしてなりません。例えば、山口尚芳にしても、なかなか佐賀県では山口尚芳のことが評価が少ないように言われますけれども、それはそう、佐賀の鍋島の本藩の殿様より偉い地位についたから何か問題があるんじゃないかと、そういう心配までするようにその後はなかなか歴史的なことでは、いや、仕事はいっぱいしてもらっているんですけども、いわゆる地域の歴史家の評価の問題は少し違うような気がするんですよ。そういうときに今、太政官屋敷とありますけれども、松尾初秋議員が中心になっていろいろ地域のお世話をさせていただいてきちんと太政官屋敷を守っていただいているんですよ、先輩方のそういうですね。今までも太政官屋敷とありますから、それを本

当に毎年慰霊祭をしてもらっている、そういうふうな地域の行事でもなかなか武雄市民全部で参加するという事は少ないようです。

ほかにも例えば、新町のお医者さんの生家とかいろいろございますし、いっぱい歴史的に武雄にとってはすばらしいものがあるんですよ。北方あり、山内あり、それぞれいっぱいあるわけですが、そういう点に対するいわばそういうものの掘り起こしはおかしいですけども、要するにもう一度再認識をして、そして、それを教育の場で生かすようなことも大事じゃなかろうかという気も一面するわけですが、その点について教育長はどうお考えですか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

先人に学ぶということの大事さでございますが、御存じのとおり図書館、資料館におきまして、これまでも山口尚芳先生の企画展、あるいは松尾静磨先生の企画展等々、先人の業績を掘り起こして広く紹介してきたところでございます。そういう面につきましても、さらに郷土理解ということで、そして先人に学ぶということで進めていく必要があろうかと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

30番谷口議員

○30番（谷口攝久君）〔登壇〕

今、教育長からそういう御回答をいただきました。確かにうれしく思いますし、そのことをやはり十分に地域の方々にわかってもらう。ただ学校の子どもたちだけじゃなくてやっぱり地域がそういうことを理解せんと進まんわけですから、その点についてはひとつ十分に方法を考えていただきたいという気がいたします。

実は、これ教育行政に関係ありますので、最初、教育行政のほうから入っていつていますが、小学校の進路指導というのはどういう形で行われていますか。小学校の進路指導、中学校は当然でしょうけれども。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

小学校での進路指導というのは、これまでだと余りなじみのない言葉だったわけでありまして、御存じのとおり県立中学校等ができて、小学校でもやはり必然的に進路についての指導は必要性が、やってなかったわけではありませぬので、必要性が増してきたということでございます。

最近としては、特にやっぱり小中連携してより緊密な指導体制を組まないと、中学生1年

生での問題が余りにも多いということで、連携をした取り組みをやっているところでありまして、北中校区ではその研究的な実践をお願いしているところでもあります。そういう中で、小学校では、今申しました中学校への円滑な接続することを目指しまして積み重ねているところではありますが、現実には例えば、中学校の先生が出前授業で小学校に来ていただいて、中学校の雰囲気、あるいは教科の専門的な空気といいますか、そういう時間を持ってみたい、あるいは北中校区では両方の小学生が中学校の教室で授業を受けて体験入学をしたりというような形で、中学校へ進学するということがどういうことなのかということについて実感を持った学習を積み重ねているというのが中心的な状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

30番谷口議員

○30番（谷口攝久君）〔登壇〕

本当に私たちの時代には小学校から中学校に受験がありましたですけれども、あれから随分長い間何十年かなくて、今度やっぱり県立中学校ができたからそういう小学生がいわゆる受験をしなきゃいかんというふうな問題になっております。ですから、そうすると、いわゆる問題は、単独の高校、一貫校は別としても1つしか武雄にはないと。人口5万以上ある武雄市に高校が1つしかないということになる問題、今まで青陵高校もあったわけですから、両々相まって教育効果も上がっておったと期待しておったわけですが、そういう問題も出てまいります。このことはまた別個の問題として訴えたいと思いますけれども、そういう問題があると同時に、実は小・中学校の進路指導の中で、例えば、ことは中高一貫の中学校に入学を希望する武雄市の生徒の数、武雄市立の中学校に行く子どもの数、いわゆるそういう数について発表できますか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

大変申しわけございませんが、数値、今ちょっと確認はいたしておりません。

○議長（杉原豊喜君）

30番谷口議員

○30番（谷口攝久君）〔登壇〕

いや、教育長、失礼しました。私は、一つの流れでそういうふうな対応の仕方で、実はちょっと気になった点が1つございました。小学校から試験を受けて、いわゆる1次選抜試験を受けて新しい中高一貫校の中学校に合格をしたと。ところが、実際には後が抽せんのために実際に自分の力というよりも僥幸に頼らなきゃいかんと。神様、仏様、何とか様みたいにくじ引きですから、そういうことになると実はよくないというふうな話から、試験だけでいいこうというふうな方向に変わってきつつあるとかという話が前から論議があって、今現在に

至っているわけでしょうから、そういうふうな問題の中で、実は青陵中学に例えば受験をしていわゆる成績は頑張った、みんな行ける力を武雄の小学校の生徒は持っていると思いますので、ところが、抽選で落ちたために結局行けなくて、いわゆる今までの市立の中学校に行ったと、その子どもたちの心のケアという表現はおかしいですけども、ちょっと気になった点がありました。ところが、それはいいほうで気になったんですよ。なるほどなと思ったのは。それは、いろいろ関係させてもらっている弁論大会に去年おとし出た子どもたちが、要するに本当に試験で私は県立の中学校に入れなかったけれども、もうむしろ自信を持ってまた頑張って友だちと一緒に今までのように中学校に行けるんだということで、弁論大会で子どもが発表したことがございました。本当に私は、ああ、頑張っているな、たくましく育っているなという気を実はしたわけです。

ところが、本年度は実は武雄市は52回目の弁論大会をやりましたけれども、ほかの武雄青陵中学校からも弁士は出ていますけれども、いわゆる一番大きな武雄中学校だけが1人も弁士が出てないと。いわゆる弁論大会に出るからいいとか悪いとかという問題は別の問題ですけども、本当にすべての学校の中で武雄中学校だけが出てないというふうな状況を見たときに、本当にそういうふうなのは指導の先生の問題なのか、あるいは子どもたちの意欲の問題なのか、いわゆるそういうものがちょっと気になったもんですから、そういうふうな本を読むとか話すとか、みんなでまとめるとかそういうものについての指導というのはどういうふうな格好になっているかをちょっとお聞きしたいと思ってお尋ねをします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

これまで議会におきまして、学校の教科の学習の中で国語の力を高める、言葉の力を高めるといことが非常に大事だということで力を入れていきたいということを申しました。読む、書く、聞く、話す、それぞれ小・中学校、特に頑張らせていただいている状況がございます。そういう中で聞く、話すということも非常に大事でありますし、特に武雄市の子どもたちにとって聞く、話すという力は非常に大事だと思っております。そういう面に取り組んでいただいているんですけども、先般の弁論大会におきまして武雄中学校からの出場がなかったということをおもって私も驚きまして、後、確認をしたところでございますが、ちょっと担任の先生とのこの解釈の違いが、理解の違いがあったようでございます。ただ、今回は弁論大会等も少しずつ工夫をしてやっていく必要があるんじゃないかということで、やりつつあるところでございますが、どんどん生徒たちの発表の機会として活用していきたいというふうに思っておりますし、また、大会だけでなく国語科の指導というのを特に重点的にやっていきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

30番谷口議員

○30番（谷口攝久君）〔登壇〕

今の件については、やっぱり指導の先生方のそういうものに対する考え方の違いによっては、過去にもそういう例が一度か二度ありました。ですけれども、しかしまた、やっぱり子どもたち自身が希望するというのでフリー参加ということもありました、制度上ですね。今はちょっとシステムが変わっているでしょうけれども、そういう問題があったことは事実です。ですけれども、今思ったのは、それぞれの中学校、小学校の子どもたちが上がっているの中学校ですから、それぞれの県立であろうが、武雄市立の中学校であろうが、やはりみんなの意欲、能力は変わらないわけですから、だからその点については1つの事例としてちょっと感じたから申し上げたわけでございます。それはそれで結構です。

特にもう1つは、いわゆる県立、市立の中学校における教育方針というものについて次にお尋ねをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

言葉は違いますが、義務教育でありますので、中学校としてのいわゆる知・徳・体の調和のとれた発達というのは必ず教育方針に出てくるわけでございます。武雄市立の中学校との違いといいますのは、もうおわかりのとおり、6年間の中ではぐくんでいくという県立の根本的な違いがございますので、そこを加味した方針等が県立の場合は出てくるということでございます。それから、地域というのが当然違うわけでございます。その意味では、その辺の方針に違いが出てくるということも当然のことかなというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

30番谷口議員

○30番（谷口攝久君）〔登壇〕

私は、武雄市の子どもたちのレベルは高いと思っております。問題は、いわゆるこれが市単位で発表がされないものですから、分析の仕方がなかなか、現場だけしかできないと思うんですけれども、全国の学力テストの結果が公表されましたときに、さっき私が冒頭申し上げましたように、秋田の子どもたちは連続して全国第1位なわけですよ。その点についてはどういうふうにお考え、秋田のことを教育長に聞くのも失礼ですけれども、もし何か所感があればどうぞ。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

この学力テスト全国調査につきましては、わからないところがあるわけでありまして。小学

校において国語、算数、中学校において英語が加わってと。じゃ、ほかのところはどうなのかというと、秋田の子どもたちについてもわかりにくい部分がございます。何をもって子どもの本当の力かと考えますと、いろんな面を考える必要があるわけでありましたが、ただ、2年続けてそれぞれの教科で全国トップクラスということは間違いなく事実でありまして、少なくともその面については大変な力を持っているということが考えられるわけです。

これはいろんな要素が言われておりますけれども、例えば、佐賀県なんかと比べると非常に少人数の指導が徹底しているというようなことも言われたりするわけでありましてけれども、いろんな要素を考えないといけない。家庭とか、テレビを見る時間とか、あるいは読書の時間とか、間接的に、あるいは直接的に影響することもあるわけでありまして、総合的に判断しないとイケないことだというふうに考えます。

○議長（杉原豊喜君）

30番谷口議員

○30番（谷口攝久君）〔登壇〕

今、教育長もおっしゃったように、これもデータですから、データとしてきちんと出ていますので、私たちが本当に冒頭申しましたように、子どもたちの慰霊祭での発表、発言の仕方、それから本当にそういうものにただ大人が参加せろと言うから近所の人と一緒に参加したという感じじゃないわけですよ。本当に心から先輩方、あるいはお世話になった方に対する感謝の気持ちがあらわれている、そういうふうな子どもたちのおる学校のレベルが高いのかなと。ですから、そういう感じを受けたからあえて、実は武雄の子どもがレベルが低いという意味じゃないんですよ、私が言いよつとは。武雄は武雄ですばらしい考えがあると思っておりますけれども、結果としてこれが連続してそういう結果だとすれば、そこに何か方法があるんじゃないかと。

それで、実は分析してみましたところ、ちょっとこれ表現おかしいですけども、いわゆる子どもの学習時間の変化はほとんどないんだと。だけど、宿題を出している学校がある程度ふえたけれども、宿題が少ないから、多いからといって学力の差があるような気はしませんが、問題はテレビを見たりテレビゲームをしたりする時間が短いほうの子が正答率が高いという結果として出ていますけれども、そういう点については教育長どう思われますか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

お話にありましたように、家庭学習の時間が少ないというのは、外国と比べるとさらに顕著なようでありまして、そういう面では家庭学習のあり方、出し方というのは考えていく必要があるかというふうに思います。

テレビとかゲームについても、各市町の教育委員会等でもさまざまな取り組みをやってお

りまして、例えば、今年度はノーテレビ、ノーゲームデーということで月に1回の試みをやったわけではありますが、それでも保護者の皆さんのアンケート用紙等を見ますと、いろんなメリット、すばらしい成果が出ている、感じているところもございます。ただ、これを中学生にとってどうかとなりますと、かなりそういう形でやるのがいいのかというのは問題も出てきておりますので、新年度に向けてまた考えていきたいというふうに思います。いずれにしましても、家庭学習であつたりテレビゲームの時間というのは、学習にも影響をしているということは間違いないことでございます。

○議長（杉原豊喜君）

30番谷口議員

○30番（谷口攝久君）〔登壇〕

これはノーテレビデーの問題も今出ていますけれども、確かに私は効果があるような気がいたしました。これは私のつたない体験ですけれども、うちは1年間だけテレビのない、一切テレビを見ないということをやった、実験的にやった、実験的というよりも、テレビが壊れて見れなくなったというのが実情ですけれども、そういう体験があるんですよ。そしたら、急激に読書をする量がふえて、そして本を読むことによって考えなきやいかんということで、それがいろいろ人格形成にも役立ったんじゃないかなろうかなと思って、親がテレビを買い与えることができなかつた財政的な問題のそういう申しわけなさはあるんですけども、結果としてそういうこともあつたと。今、盛んにノーテレビデーのことが学校でも指導されているもんですから、実感としてそういう子どもたちはうちは3人とも体験をしたと。1年間だけテレビを見ないということを挑んだことがあります。

それはテレビが見れなくなった理由はほかにもっと、武雄小学校の教室等問題とかいろいろございますので、それはあえて置きますけれども、現実問題としては県内では中学校3年生の数学の格差が随分広がっているというふうなことが新聞でも書かれています。そういうふうな学校の教科の先生を特に選んでするとかということは一切教育委員会としてはできない問題でしょう。いかがでしょうかね。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

義務教育の段階で担当の先生を選んでという形ではやっておりませんし、ただ現在、以前に比べますと英語、数学等を中心にチームティーチングの授業がたくさんふえているというのは事実でございます。

○議長（杉原豊喜君）

30番谷口議員

○30番（谷口攝久君）〔登壇〕

教育委員会のそういう学力テスト等の問題については、いわゆる判断の仕方とか資料等が各市町村では発表されなくなっていますので、なかなか評価がしにくいですが、そのときの流れとかいろんな問題があるだろうと思いますので、あえてこの程度にしたいと思います。

ただ、問題は、こういったような形の中で、実は武雄に関係ある秋田の地域はとにかく全国でも抜けて頑張っているんだというふうなことを感じましたときに、先ほどの戊辰戦争の話をもた思い起こしたわけでございます。どうぞひとつそれを頭にとどめておいていただければ結構でございます。

次に、移りますけれども、実は教育委員会が所管される中で幼保一元化という問題があります。先般、私たちもいわゆる福祉文教の委員会で視察に行かせていただきましたときに、実は幼保一元化を何と申しますかね、幼保一元という表現はおかしいですが、地域の方々が理事長になって、例えば、私の地域で言えば、本町なら本町でいいんですが、区長さんなり代表が理事長になって、本町に幼稚園と保育所とそれが一緒になって理事会で運営をしているとか、非常に地域の子どもたちをしてもらっているというケースが出ておったのを資料として私は持ってまわって、質問の中でそれぞれの担当課のほうに、いただいた資料は山崎委員長の許可を受けてお届けしておきました。その点についてのお考えはどうなんでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

藤崎こども部長

○藤崎こども部長〔登壇〕

私のほうからは、幼保一元化認定こども園の推進について今、兵庫県丹波市のほうで推進されているというふうなことで質問を受けておりますので、それについてお答えをさせていただきます。

丹波市は、平成16年に6町が合併してできた人口7万人程度の市で、ここは公立保育園が3園、私立保育園が19園、計の保育園が22園で、それから幼稚園がすべて公立で19園ということで、この19園のうちの5園についてはほとんどが5歳児だということで、1年保育が実施されているところでございます。丹波市で保育園が22園、幼稚園が19園ということで、41カ所ということでたくさんの保育園、幼稚園がございますけれども、全国的にも少子化の流れの中で、子どもの成長に必要な規模の集団が確保できなくなってきたため、幼稚園と保育園を統合した認定こども園の設置を推進されているものと思われま。

国においても、平成21年度の改定の保育指針では、幼稚園教育要領に準じ、ゼロ歳から就学前までの全年齢を通じての養護と教育が鮮明に示されておるところでございます。このことにつきましては幼稚園と保育園の垣根が低くなってきているものと思われま。武雄市とは状況が違いますので、一概に比べることはできませんが、丹波市の例を含め今後勉強をさ

せていただきたいと思いますところでございます。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

30番谷口議員

○30番（谷口攝久君）〔登壇〕

これは上野議員が前の議会でも取り上げていただきましたし、同時に同じ委員会の中でそれを論議し、そして実は公立の幼稚園が武雄市は1園だけですし、ただ問題は、地域の問題、あるいは人員の減少問題等があって、市が対応する方法はどういうのがいいだろうとか地域のいろんな皆さんの声が集約されて、いわゆる丹波市の場合はその地域が理事長になって運営をしているんだと。そのほうが国の予算上の問題とか、市の負担の問題とかというのを関連すると、かなりいい問題が出てくるんじゃないかというヒントになればと思って、いわゆる委員会で調査をしたことを御了解いただいた上で提出をしたということでございます。

本来は、私はこれ大体認定こども園のこともさることながら、実はこれ12月の最初にこの議会が一月前にある予定でしたから、いわゆる園児募集でいろいろ御苦労があるだろうかと、そういう問題をお聞きしようと思ったんですよ、本来はですね。ですけれども、当然時期的な問題もございますし、これについては検討を始めておかないと調査費ぐらいはつけてでもやっぱりしていただくかんといかんのじゃないか、あるいは残すなら残すと、あるいは就園バスの問題とか、それから巡回バスの問題とか、いろんな問題がやっぱり子どもを預かる施設としても、あるいは子どもを預ける父母としてもいろいろとやっぱり課題があるだろうという気がするものですから、あえてこの機会に一緒に取り上げさせてもらったということでございます。

そういうことでございますので、そういうふうな幼稚園問題についても市長が先般のときも発言をされておりましたので、市長、こういう市が経営する施設等についてそういうふうな国の制度の活用問題についてはどういうお考えでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は、国が進める幼保一元化は評価をしておりません。と申し上げますのも、非常にやはりこれ厚生労働省と文部科学省の権限争いがこの認定こども園に入ってきているのかなというふうになっておって、これが恐らく全国的に広がらない一つの大きな証左だというふうに思っております。したがって、国が言っていることで是とするものについては早く取り入れる必要がありますし、国が言っていることで、これはどうしても地方の実情に合わない、あるいは、これは国の言っていることと真逆のことをしたほうがいいだろうと言っているものについては、それは地方が責任を持ってきちんとやるべきだというふうに思っております。

病院関係もしかりでございます。さまざまなことで地方がこれ議会とよく協議をして主体的に物事を決めなきゃいけないと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

30番谷口議員

○30番（谷口攝久君）〔登壇〕

教育委員会としては何かございますか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

昨年、その前から幼稚園等についていろいろ検討してきているところでありますし、認定こども園等についても検討しているというのは事実でございますけれども、いずれにしましても、非常に少子化が激しゅうございまして、そのところでいろんな可能性が、ちょっとそこでとまってしまうという状況が現実でありまして、検討しているという状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

30番谷口議員

○30番（谷口攝久君）〔登壇〕

今の幼保一元化ということについての、私も必ずしも幼保一元がいいかどうかの問題についてはちょっと考え方が違うんです。ただ、今市長の発言を聞きまして、私は何も別に市長はやっぱり国の経験をしてこられたから、やはりそういうふうな国の方針については随分前向きにとらえて進められるかなと思いましたがけれども、認識を改めました。国がやることでも絶対いかんことは反対して、地方独自のやり方をやらなきゃいかんと、そういう見識をお持ちということは今しみじみと感じておりますので、期待をいたしております。

そういうふうな問題の中で、やっぱり目の前に子どもたちを募集するって生徒は集まらない、負担は大きくなる。バスが回るにしても、例えば、その園が出すバスの料金にしてもやはり保護者の負担が、人数が少なくなればなるだけタクシー使っているみたいなもんですから、だんだん大きくなってくるとか、そういう問題が目の前に出てきたとき、子どもたちを育てる親はみんな平等で同じ市内がその地域が、ただ人数が少ないから負担が大きいというのはおかしいわけですから、その点についてはやっぱり行政の立場の中でいろいろと検討されるべきじゃなかろうかというふうな気がして、あえてそれをつけ加えて、この問題についての質問は終わりたいと思います。

じゃ、次に行きます。

文化行政と教育の独自性の問題でございますけれども、いわゆる実際のいろんな運営等については教育委員会が、あるいは図書館、資料館がなされると思います。その中で、実は篤

姫展の問題でもう一度お話をしたいと思いますが、篤姫展の中で実際思ったのは、薩州絵図ですかね、本当に鹿児島市ですら余り持ってないような、全国で一、二枚しかないのが武雄にあるということも聞いておりますけれども、そういう場合はよく展示会なんかも例えば、戊辰戦争のときは秋田とか日本じゅうから交渉をしていっぱい借りる。それぞれの大事なものですから、門外不出みたいなものがあるでしょうから、なかなか貸してもらえないものがありますけれども、そこは人間関係、信頼関係でそういう資料等はお互いが提供し合うということもあるようです。

ですけれども、そういうところにやっぱりそういうふうに図面なんかで、私はちょっと調査している中で感じたのは、ここまで歴史資料とか自分たちが持っている資料、武雄市が持っている財産というのは大事にされているんだなと思ったのは、例えば、Aという図書館に武雄市が何か貸さにかいかんという場合、Aという図書館なり、あるいはBという資料館なりに貸すときでも、武雄の持っている資料が歴史的に大事なものであればあるだけ、実は行ってから例えば、光がずっと当たるといわゆる資料が傷むということになって、照度というんですかね、ルクスというんですか、そういうものまで限定をして、それをきちんと照らす光を守らなければ絶対貸し出しはしないと。持って帰ってくるぐらいの気持ちで実はやられていることを知ったわけですが、その点については教育長どういうふうなことでしょうか、意味は。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

確かに貴重な文化財があるわけでありまして、その管理等に十分気を配っているところでございます。特に、よそへの貸し出し等につきましては神経を配って、こちらが借りるときも当然でございますけれども、しているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

30番谷口議員

○30番（谷口攝久君）〔登壇〕

貸し出しの資料についてですけれども、例えば、図書館が佐賀県内でも非常に佐賀とか伊万里に次いで武雄の図書館というのは利用しやすいし評判もいいようでございますけれども、問題は図書館にない資料というのはたくさんあるだろうと思いますけれども、そういうときの貸し出しの場合は、例えば、国会図書館でも何でも要するに武雄市の図書館を通じてやれば資料としてお借りできるんですか、そういうシステムになっているんですか、そこらの図書館の閲覧、貸し出し等のネットワークと申しますか、それについてちょっとお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

個人で貸し出しできるかどうかというのはちょっと不明なところがございますけれども、厳密に貸し出し依頼の文書がこちらに回ってきまして、決裁しているというところがございます。したがって、いろんな全国の図書館、資料館等とのやりとりを現実に行っているところがございます。

○議長（杉原豊喜君）

30番谷口議員

○30番（谷口攝久君）〔登壇〕

実は、図書資料等が非常に専門的な場合はなかなか単価も高いし、本の値段も高いから、なかなか図書が予算全体としては買えない場合もあるんだということもわかっていますし、お聞きもしています。ですけれども、例えば、市長もいつもおっしゃいますけれども、武雄の農業は、農は基本だと。国の基本だということも何かのときにはおっしゃったような気がします。農業問題について例えば、こっちも議会の中で専門家もたくさんいらっしゃいますけれども、農業問題について勉強しようという場合に、図書館に行ってもどうも資料が足りないという声も聞かないではないわけです。そういう場合、例えば、農林課、産業部会でも農業にも観光にも関係するわけでしょうけれども、そういったようなものに対する資料等は市役所の中でお互いが例えば、農林課が持っている資料は図書館に寄託しておけばそこを活用できるとか、そういう問題も必要じゃないかと思うんですが。

実は、ここに「現代農業」という本があります。これは2002年の本ですけれども、無登録農薬の問題ですね。それから、「現代農業」の中にもいわゆる防除問題等について掲げている部分がありますが、附せんがっぱいつているのは、例えば、農薬の問題でも残留農薬の問題で実は食の安全・安心という問題があって、来年は特に佐賀県で全国の食育まつりが何かあるんでしょう。そういうふうな状況の中で、いわゆる食の安全等について農薬についての本が書いてあって、昔は実はその農薬はみんな使っておったし、使ってもよかったところ。ところが、制度が変わって、あるいは安全性の問題が出てきて、非常に安いけれども、その農薬は使えんというふうな話が出てきて、それは使っちゃいかんというそういうふうな方法等についての通達も出たと。ところが、ある本を読んでおたら、その資料の中には昔の農薬の使い方そのままそっくりまた載っている本があったとか、そういうふうな話もある篤農家からお聞きしました。その方が勉強されていた本も貸してもらったし、図書館にも電話をしたりして、これは御存じのように武雄町、前の蒲地議員さんですけれども、非常に熱心な篤農家の方でございますが、そういうふうな問題が出てきました。

現在、図書館は農業に関する書籍等はどの程度あるものか、件数だけでもいいんですが、ただ、問題はたくさんある中で農業の雑誌は一部しかとってないと。1つしかとれてないと。

あとはほかの雑誌は何種類もあるんですけども、農業については一部だけだと。そんなら、図書館がなければ農林課とかそういうのは、じゃ、図書購入費として予算上、私は余り見たことはないですけども、どういうふうになっているか、そこら辺について所管課で説明していただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

農業に関する蔵書ですけども、手元に資料を持ってきておりませんので、まことに申しわけございませんが、後ほどということでお願ひします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は、週1回図書館を使うようにしていますので、私の見た感じで言うと、農業コーナーはあります。本のセレクトも非常にいいです。図書館に私は何でもかんでも詰め込むのは反対であります。あくまでも知識を得る上の玄関口であるのが図書館だというふうに思っておりますので、私の図書館行政のあり方というのは、なるべく幅広く置いておくのが市立図書館の役割だろうと。これは何も専門図書館じゃないわけですね。ですので、その先に例えば、基本書を読んで専門的な索引を見るということになった場合には、それは例えば、県立の図書館であるとかさまざまな公の図書館があれば、そうする必要があるのでしょし、私も図書館に行って索引だけを見てほかの本を買うときもあります。特に行政の場合には買います。そういった意味で、私はその図書館というあり方そのものについては知識の玄関口だというふうに認識をしておりますので、議員とはちょっと反対かもしれません。

○議長（杉原豊喜君）

30番谷口議員

○30番（谷口攝久君）〔登壇〕

またそこにちょっと食い違いがあるようですが、私は図書館に専門書を何でも置けということを申し上げているわけじゃないわけですよ。前段で申し上げたように、図書館でそういう予算上のことでその程度の資料しかできないときは、例えば、農業問題では農林課、産業の問題では産業の観光課なりそれぞれの分野で書籍を購入しているし持っているとするれば、それをお互いが活用できるような方法が必要ではないのかという話をしているわけですよ。私も市長に負けんくらいは本を読みますから、そのことはよくわかります。専門書をそこにすべてを求めるんじゃなくて、武雄市の市立図書館はやっぱり子どもの教育とか、あるいはそういうふうな家庭学習とか、そういう問題についての非常に力点を置いた非常に使いやすい、みんな利用しやすい図書館ということで評価は高いし、私も評価しています。

ですけれども問題は、今はいろんな問題があって、じゃ、職業指導まで図書館でやってほしいというところもあるわけですよ。そういう問題を考えたときにそれについての考え方として、例えば、県立図書館とか、あるいは国立国会図書館とかいろんな分野で、ただ、農協だって農協の関係のいわゆる農協中央会が図書館持っているかどうか分かりませんが、そういうふうなところについて、まさに日進月歩ですから、雑誌一つにしても、農薬にしてもそうですよね。そういうふうな問題ですから、そういうことについてお尋ねをしているわけですから、市長がおっしゃったように図書館にすべて何でもかんでもやらせるということを私は思っているわけじゃないんですが、ちゃんとやっぱり一応質問者の意向を首長は聞いてから答弁してほしいと思いますね。それはいいですよ。ですから、それについては農林関係はどうか、農業関係は。ちゃんと通告もしていましたよ。内容も言ってますよ。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

農林関係の図書については今特別に予算組んで購入していることはないと思います。ただ、最近の農業の動きとかそういう農業の新聞、雑誌、そこら辺については農林課のほうにございますので、利用はできます。

○議長（杉原豊喜君）

30番谷口議員

○30番（谷口攝久君）〔登壇〕

これはトータルとして産業全般の問題ですから、例えば、自分のところは必要である、例えば、観光関係の資料とか年鑑とかいろいろあるだろうと思うんですよ。そういうのも私は例えば、それぞれ市の職員の方々は専門書を1冊ずつ持っておったってそれだけでも図書館ができるぐらいにあるわけですから、そういう問題について、いわゆるお互いが有効活用できるような方法がないかという話を私はここで取り上げたかったわけですよ。図書の購入費も限度がありますし、それから、いい本の、中には本当に年鑑なんかというのは毎年変更されるたびに買いよったんでは大変、何万とする本だってたくさんあるわけですから、そういう点についてはいわゆる産業部会とかいろいろあるんでしょうけれども、商工観光課にしてもそういうふうなものについてはやっぱりきちんとして資料等があれば、そういうふうなやり方があるんだということをお話をいただきたいと思います。

教育委員会、何かありますか。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

先ほどの農業関係の蔵書の冊数ですけれども、全体で2,000冊ほど蔵書を持っております。

それから、国立図書館等との相互の貸借ですけれども、これはできるということになっておりますので、お知らせをしておきたいと思っております。

それからもう1つ、県立中学校等への入学の状況ですけれども、これは平成20年度の状況ですが、武雄青陵中学校へ90名、それから、その他の私立中学校へ7名ということになっております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

県立図書館の運営会に出席する機会がございますけれども、県立図書館でも全県を1つの図書館にという構想でそれぞれの図書館がネットでつながっておりますので、ちょっと時間がかかりますけれども、市立図書館で申し込まれて県立図書館の蔵書を借りるということもできるような仕組みが整っております。

○議長（杉原豊喜君）

30番谷口議員

○30番（谷口攝久君）〔登壇〕

この話がどうしてこういう形で出てきたかという、昨年までは伊万里の市立図書館が武雄の人もどんどん本を貸してくれておったわけですよ。ところが、伊万里はもう市外の人には、いっぱいいっぱい貸せなくなったということになりまして、それで武雄市の人たちが伊万里市に借りに行くことができなくなって、そしてやっぱり専門的なものも見たいとかいろいろなことが出た中でこういうふうな方法が何かないかと。今お聞きしますと、これは日本じゅうから借りられるわけですから、本当に図書館が機能として真ん中にある以上、私はすばらしいことだと思いますので、それぞれ専門の分野いろんな分野で私は本を借りられると思うし、各いろんな団体が持っている図書室も結構すばらしいんですよ。でも、公式に図書館を通じて借入れを申し込めばもっとかなり立派なものが借りられるという状況が出てきているということですから、これは私いい機会ですから、こういう機会に議会の質問、あるいは答弁を通じて市民の方々に知ってもらいたいこともいいことじゃないかと思っています。

では、図書館等についてはこれで終わりたいと思っております。

時間が余りありませんので、もう1点先に、商工観光行政の中では、これはちょっともう既に手配をしてあればいいですけれども、観光名刺を私は使わせてもらっております。ところが、やっぱり観光名刺を使う中で、はっと途中で気づきましたところ、実は武雄温泉の楼門が国の重要文化財に指定された後、正式に名称が記入されていないわけですよ。よそに持っていこうとしてちょっとと思って私はまた引っ込めて帰ってきました。正式に国の重要文化財ならいいですけれども、「国重文化財」と書いてあるわけですよ。だから、それを全く

明らかに、いわゆる国重文ならいいですけども、国重文化財なんていう言葉はありませんので、そういう点についてはどういうふうに修正、訂正をされたのか、その点についてお尋ねをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

現物を確認した上でいきさつ、それから今後については検討したいと考えています。

○議長（杉原豊喜君）

30番谷口議員

○30番（谷口攝久君）〔登壇〕

そうおっしゃるならそうでもいいですけども、実際問題として現実にそういう問題については既に担当課のほうに、私のほうはこういうもので、これでは使えないからちゃんとしてほしいということも申し入れしてあるんですよ。届いてないわけですかね、そしたら。まあ、いいです。

いずれにしても、よそに出す名刺に自分の名前を間違ったらしようがないと思いますけれども、それでもおかしいですが、いわゆる例えば、写真をわざわざ温泉の楼門をすばらしいものだからというような中でやったときに、国の重要文化財というのがとにかく国重文というだけであればこれは正式な呼び名だけでも、国重文化財なんてないわけですから、そういう点についてはやっぱり、せっかく観光立市と市長も言って一生懸命頑張っているわけですから、そういう点についてはきちんとしてもらわんといかんと。特にもう既にそういう間違っただ印刷をしてあるのがいっぱいあるそうですよ、観光名刺として。それはもう間違っただ名刺をもったいないから使うというんじゃますますおかしいですから、市が回収してやってもきちんとした名刺をつくりかえてあげた方がいいと思いますよ。もうその点は担当部長に、所管の部長にお任せして、それ以上言いません。

次に移ります。

実は、私は市民病院という表現ではここに出しておりませんが、実は、武雄市市政の円滑な運営についてということの中で気になる点は何点かありました。私はテープを用意して、ところが、これも議場では上映できんそうですから、あえて袋に包んで持ち帰りますから、いつでも一緒に見たいと思いますが、実は市長の説明責任の話ばかりが全般出ておりましたけれども、管理責任についてもやっぱりきちんとしてもらわないとやいかんという気がします。いわゆる任命責任の問題もあるような気がします。

というのは、今後例えば、武雄の市民病院の問題で民間に移譲するという形の中で、市が本当に市民病院のそういうふうな持ち味を生かした病院であるようにきちんと条件をつけると、監視を——監視しておかしいけど、していくと。そのためには2対1とか3対1とかと

いうシステムを持ってやっていくというふうな感じのお話をされておりました。私が質問する段階の中では、実はそういうふうなものを含めて話したいと思ったんですけども、1月にまたがってしまっていますので、そのときはそのときで新しい市長に聞いてもいいということが議運で論議があったそうですから、あえて聞かせていただきたいと思いますけど、よろしいですね。

そこで、私が申し上げたいのは、実は、本当に武雄市が自信持って、今は市民病院ですよ、今ならどんどん言えるんですよ。ところが、いわゆる22年の2月から後は新しい和自病院になるわけですから、現実問題としては個人の、いわゆる民間のものを公が権力的にそういうふうなこうしなさい、ああしなさいということはできるかどうか、その問題についてもう一遍お尋ねをしておきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

もうこれも再三御答弁申し上げますけれども、基本的にシビリアンコントロールのことをおっしゃっていると思うんですね。これについては3点もう既にお答え申し上げますが、1つが人事交流の部分、それともう1つが政策協定、きょうこれは新たに申し上げたかもしれませんけれども、政策協定、それとガラス張りの部分、それとやはりここには議会の役割というのは非常に大だと思うんですね。単なる民間病院ではないわけですので、議会がここはこうすべきだと、あるいは、ああすべきだといったことについての監視監督機能というのは従前市政調査権の延長線で発揮をしていただきたいというふうに思っております。その上で、市民病院の移譲先でありますので、市民のための病院であります。

したがいまして、これがちょっと重複になりますけれども、私は3プラス1という言い方をしております。行政、池友会、そして医師会の皆様方、そして何よりも大切な市民の皆様方に入っていただいて、ガラス張りの経営の中でさまざまなことを要望として、あるいは御批判としていただくようにしていくということで、私は十分それできちんと担保ができるというふうに思っております。その上で行政的な行政法の権限の行使ですけれども、基本的にはさまざまな政策合意、協定になりますので、これは行政指導の対象になります。したがいまして、私はこれはないというふうに思っておりますけれども、何らかの違反事犯であるとか、契約違反であった場合には、まず市当局から行政指導という形で指導がなされると。それともう1つが、これは今度もう民ですので、民法上の世界等にありますが、さまざまな権利、義務というのはもう民法上の世界に移ってまいりますので、民事訴訟法等の世界の中でさまざまなことがこれは行政だけではなくていろんなことが言われるというふうになると思います。これは単なる民間病院ではなくて、二重、三重の制度的担保がそこにはあるというふうに思っておりますので、私はそういった意味では心配要らないと。

ただ、1つだけちょっと申し上げたいのは、やっぱり一番大事なのはガラス張りであります。そういうことで行政としてもなるべく病院の場合は個人のプライバシーの部分も、患者さんのプライバシーの部分等ありますけれども、なるべく経営等に至っては、あるいは診療内容、マクロの意味での診療内容等に至っては、広くオープンにガラス張りにするのが必要だというふうに認識をしております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

30番谷口議員

○30番（谷口攝久君）〔登壇〕

二重、三重に契約上の制約があると、そういう感じ、今から契約するわけでしょうからね、そうなる。今までの中では、そういうふうな契約に違反する場合は取り消しができる。現実問題として今いわゆる既に市民病院でありながら和白病院と、こう言わざるを得んぐらに積極的な協力を入れてもらっているということでしょうがね。だけれども、市長は、じゃ、行政が今ならまだ言えることがあるでしょう。まだ市民病院に対して協力してもらっている状況ですから、ところが、売ってしまっって民間になったときに二重、三重にそういうものの契約についていろいろするような方法というのはどういう方法があるんですかね。私も法律については見せていただければどういう内容かわかりますけれども、ちょっと理解しにくいですね。

そしてもう1つは、実はこれもあるんですよ。これ市民病院の問題でしょう。ずっと全部テープがあります。このテープの中で、これは本当は皆さんにお見せして本当にこういう方の中でそういうふうな市が自分たちの市民としてはこう言うべきだと。こうしてほしいということと言えるかどうかということ懸念するわけですよ。これは、病院事務長は毎日毎日会いよんさっけんですね——毎日毎日会わんな。週に3回はお会いになるでしょうから、医療統括監のお人柄とか考え方の中であるのは、病院長も事務長も職員も何か市役所の本庁の課長、部長までが私の言うとおりにしなさいと、市長から言われていると。市長だって私の言うとおりにするんだよということがこの中のテープにあることをきのうはあっていましたよ。それは公に日本じゅうにテレビで放映されているわけですよ。そして、あろうことに、大学から派遣される医師なんて信用されんと。はっきりみんなに言ってあるわけですよ。そして、本当に病院のために考えてきてくれんような人を相手にしても話にならんと、要らんというふうな言い方をされている。いわゆる大学との連携をきちんとしながらそれをやっといこうということで、何とか今進んでいる問題についての解決方法とか、あるいは考え方をきちんとせにゃいかんというふうな方向に今医師会も、あるいはそういうところが動き出そうというときに、現実問題にしては、本当に市長がおっしゃるように、市長は人がよ過ぎるんじゃないかと思えますよ。それくらいに、市長なんていうのは私の言うとおりになるんじ

やないかと公の前で言える人ですから、これを私が言うのは、こうなるじゃなくて、任命責任の問題だと、何かあったときは。説明責任じゃないですよ、私が言うのは。市長が任命をしてそういう方々を採用されたわけですから、これは市長の任命責任の問題になりますけど、その点についてはどうですか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

確かに公人が、私はテレビを全部ちょっと見たわけではありませんけれども、一部ちょっと拝見した限りだと、やはり公人がテレビの場でおっしゃるということについては、あの表現ぶりはいかかなものかなというふうに思いました。ただ、私も医療統括監を知る者の一人として、それはやはり医療に対する市民の、患者様のために対する気持ちが高じてああいう発言になったというふうに私は思っています。現に患者様から今の市民病院、医療統括監は高い評価を受けております。終末の医療を蒲池さんから受けられた方も、本当に蒲池さんに診てもらってよかったということをおっしゃっておられます。だから、評価はさまざまというふうに思っております。ただ、我々が考えなきゃいけないのは、蒲池さんがもしいなければ、今の市民病院の復活、回復というのは私はないというふうに、これは議員も同じだというふうに思っております。やはり私は率直に言って、これほど回復するというのは夢にも思っていませんでした。これほど高い評価をいただくということは、本当に念頭にも置いておりませんでした。そういう意味では、私は蒲池さんに深く感謝をしております。本当に経営の方針であるとか、表現ぶりはいろんな批判はあろうかと思えますけれども、私は蒲池さんを医療統括監に任命をしてよかったというふうに思っておりますし、多くの市民の皆様、そして患者様はそれを私が申し上げていることについては是としていただけるものだというふうに認識をしております。

そういった意味で、私も実は某テレビのあの取材は受けました。非常に乱暴でありました。もう挑発するようなことを言われて、本当にそれは、これが取材なのかと、本当に今でも私も憤りを隠せません。そういった中で、やはり一定のルールがあつた取材にはなかったというふうに私自身は思っております。そういった意味で、それに挑発されたかどうかというのは私は知るところではありませんけれども、一部の部分だけとっておっしゃるということについては、テレビというのは怖いなということを思いましたので、私自身も注意をしていきたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

30番谷口議員

○30番（谷口攝久君）〔登壇〕

一部の部分だけ、一つの部分だけを取り上げて言っているわけじゃなくて、これ全部なん

ですよ。ただ、私が言いたいのは、確かに病院の経営とか、そういうふうな大きな組織を動かすためには、ある程度自分が自信を持ってどんどん進めなきゃいかんと、そういうやり方とか人柄については別に私は何も言っているわけじゃないんですよ。今、私が申し上げているのは、市長が要するに今後、武雄市民のための病院として、いわゆる民間病院になるんでしょうけれども、現実的にはですよ。移譲してしまった後、実はそんな一事が万事という言葉があるんですよ。移譲ということを経験されたときに、みんなは民間移譲だと言っているけど、私は買収と思って書いておったんですよという言い方をされた。これもはっきり出てきているわけですよ。ニュースでも出てきています。だから、そうなると、本当に例えば、じゃ3プラス1の形の中で実際にそういうところについて、いわば市民の立場に立って考えなさいとか、市民がどうこうとかというふうなことで果たして市民のためのいわゆる契約というのですか、そういうのができるだろうかと心配するものですから、あえて言っているわけですよ。市長が自信があるとおっしゃるなら、それはそれ以上言うことはございません。

ただ、こういうふうな非常に荒れた状態の中できちんとするためにはある程度個性のある人がいないとできん場合もありますから、そういう点では、市長がそういう考え方はそうとられてももっともだと思わなくてもいいですよ。ですけども、まずは、これは市民病院だから、移譲を受けたという、市に対する感謝の気持ちどころじゃない、買収したんだと、買ってやったんだというふうな感じの印象を受けるような発言があったこと、それから現実問題としてこのテープに残されているのは、いわゆる病院長とか事務長が指揮権、監督下にあるのはいいですよ。しょうがないですたい。ところが、市役所の部課長まで私の言うとおりにいうことを表現してあるわけじゃないですか。そして、最後に、市長も私の言うことは聞くはずだと。これは全国に流れていますから、恐ろしい方を市民病院は採用されたねと言う人もいますよ。私はこの場所で初めてこれを申し上げました。これはもし本当に、聞いてみにゃわからんです。ごらんになってない方もいらっしゃるから、私はいつでもこれはやっぱり公表して、もしテレビ局がいいというならきょうは公表していいものじゃなかろうかという気がします。この点についてはもう市長に聞くのはやめましょう、このことについてはですね。

ただ、問題は、事務長に聞きたいと思えますけれども、事務長、現実問題として先ほどからいろいろ指摘がっておりますように、例えば、じゃ、購入するときに単価が幾ら以上は入札しなさいとか、あるいは合議しなさいとか、いろいろあるじゃないですか、規定がですね。財務規則の問題があるんじゃないですか。先ほど話されておったじゃないですか。あれについてはどうなんですか、もう一度聞かせてください。ただ、そのときにそういうことを知らなくてごめんなさいということでは済まんことじゃないかと思うんですけども、富永議員の発言に対して何かあっておったでしょう。

○議長（杉原豊喜君）

古賀副市長

○古賀副市長〔登壇〕

その前に一言申し上げたいと思いますけど、これは私たちの名誉のためであります。8月11日から池友会が市民病院に来ておりまして、蒲池統括監がああいうインタビューを受けられましたけど、私ももちろん大田副市長、そして指摘されました企画部長、総務部長、一度たりとも蒲池統括監から命令を受けてみたり指示を受けてみたりしたことはありませんので、それだけは申し添えておきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

30番谷口議員

○30番（谷口攝久君）〔登壇〕

今の古賀副市長の発言は私わかりますよ。彼がそう言ったからといって市役所は全く別のセクションですから、そういう方々がほかの分野に対していろいろ言うことがおかしいわけですから、それは私はそう思いますよ。ただ、そう言っているから、市が契約するとか交渉する中で、本当に市の意向が伝わりますかということをお心配して言っているわけですから、そこらは誤解のないようにしてください。あなたたちが向こうから言いなりになっているなんて一口も言っていませんよ。そこはわかってくださいよ。そういうふうな問題があるということをやっぴりお互いが認識しながら、次に実際問題として出てくるのは契約の内容についてもですね。

それともう1つ気になった点が1つあったんですよ。これを例えば、市民病院をゆめタウンの横に移すとかそういうことについては武雄町内のどこかにするということについては、最後は、ここにメモしてありますけれども、市民の方が判断されるということを市長はおっしゃったんですよ。議事録を起こしてもらっていいですよ。市民があそこはいかん、よかと言ってそれで決まるようなものじゃないと思うんですよ。きちんと市長おっしゃっていますから、議事録起こして。ええ、そうですよ。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私が申し上げましたのは、あくまでも民間移譲後の病院ですので、場所等を選定するのは池友会であります。決定するのは池友会で、それを市民の意向をやはりそこは尊重しなければいけないということで申し上げました。そこに判断で申し上げたかどうかは、私ちょっと記憶にありませんけれども、いいかどうかということの事後的な判断については市民の皆さんたちが判断される。しかし、その前を受けてやはり交通の便がいいところであるとか、やはりそういったところについて、私も市民を代表する1人でありますので、私の希望を申し述べたにすぎません。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

30番谷口議員

○30番（谷口攝久君）

では、私もこれで終わります。